

大浦に「まかだ風」が吹くころ②

5月1日号広報やまだで、冬に大浦特有の「まかだ風」が吹くころになると思い出す「鹽」の話を紹介したが、ある日、大沢出身で八幡町に住んでいる太田さんとの雑談の中でこの鹽の話になった。

この話、大浦だけの話かと思っていたら、大沢では大浦の島から流されてきたという話になっており、二人で大笑いした。なぜ…どうして、この話が太浦と大沢だけにあるのか。山田、織笠、船越、田の浜にはないのはなぜ、謎は深まるばかり。みんなから聞いたり尋ねたりしても、結局答えは皆同じ「分かんねえ（分からない）」。太浦と大沢、しかも同じ話が同時に話されているが、どのような方法でこうお互いに話し合うようになったんだろう。今のようにIT機器があった訳でもない。まず考えられるのは人的交流による方法かと思う。どっちが先に。大沢から太浦へ来たのか、太浦から大沢の方へ流れていったのか、まったく推理の域を出るのは難しい。笑い話のような話だが、人、人間をつくるということが話の根底にあるゆえ、真剣に耳を傾けたいと思う。日本全国至る所にいろんな昔話がいっぱいあり、結末はどれも子供への人として、人の道を教える話になっているが、どこかに太浦と大沢のような話があるだろうか。あるとしたら一度は聞いてみたいもんだと思っている。

前に気象についてのことわざを話したが、もう一つのことわざに「冬至上りに寒下り」というのをよく聞かされたもんだ。このことは私が言うまでもなく、季節風についてのことをうまく表現している。このことわざは親船帆船時代によく使われたもんだと聞かされた。冬至から寒までは北および北西の風が吹き、今の東京へ行くには冬至から寒の時季、東京から我が国元へ戻るのは寒下り。寒が明ければ季節が変わり季節風も今までと変わり南よりの風、南東の風となって下ってくる話。

さて、話は太浦から太浦へ流れ着く時季、冬至上りの酷寒の候、太浦へ漂着したのは温暖の候となれば…。子供心にも人としての愛情を強く受け止めるのはどの候か。みんなよく考えてこの話、太浦と大沢だけの話でなく、光り輝く山田の話にしたいもんだ。

山崎卓三（太浦・78歳）

イラスト



みんなのスペース



ささき つばさ くん
(わかき保育園・5歳)

ぼくのゆめ

ぼくはサッカーが大好きなので、大きくなったらいっぱいのうまいサッカー選手になりたいな。

投書

どんなことでも結構です。どいてお寄せください。

夕市へ寄つておでんせ

「毎度ありがとうございます。岩手宮古農協山田支店の駐車場で毎週火曜日と金曜日に野菜や花を直売している「夕市の会」です。私たちは限りなく無農薬で常に安心して食卓にお届けできる野菜などを生産したいと考え、農業改良普及センターに指導をお願いして毎月勉強会を開いています。自分たちが農業を楽しむことで元気になり、丹精込めて作った新鮮な野菜や花は、お客さまの健康と明るさを引き出す手助けになると信じています。

平成16年の発足から念願だった常設の直売所がやっと完成し、9月末から営業しています。小さいながら会員の熱意が込められた「ハウス」は、何だかとても誇らしく見えます。どこからの援助も受けず自立していくことを「力」にしようと、お互いを助け合うことにしているのです。常に努力を心掛けて、さらに品質の良い野菜や花をお届け致します。どうぞ皆さま大いにご利用していただきたいと思



9月21日に開かれた夕市

ます。いつも元気な農家のお母さんたちがお待ちしております。「いらつしやいませ」「寄つておでんせ！」

夕市の会代表 松崎美代子

非常事態宣言の発令に思う

今年に入り、山田町内では交通事故が多発し、特に7月始めから続いた30日間に3人(3件)の尊い生命が失われた事故は記憶に生々しく刻まれているところです。これだけの重大事故が多発しても後を絶たない飲酒運転と死亡事故。なぜでしょう？ 運転者の皆さん一人一人のモラルの問題だと思います。警察の厳しい取り締りがあっても、関

係者の呼び掛けがあっても、他人事に考え、「この前は大丈夫だったから」と、そんな事実を変な自信にしているからではないでしょうか。

現在、山田町は交通人身事故の発生件数が県内ワースト2という不名誉な結果となっています。本町では独自に交通事故非常事態宣言を発令し、関係団体、町民が一丸になって交通事故撲滅運動に取り組んできました。しかし、8月24日午前4時55分ごろ、船越地区の国道45号で、ライトバンとトラックが正面衝突。一時通行止めとなる重大事故が発生しましたが、幸い死亡事故にはなりませんでしたが、県内でも交通事故死亡事故が続発し、事態を重く見た県でも非常事態宣言(8月27日～9月5日)を発令しました。運転者はスピードを控え、ライトの早め点灯を励行し、歩行者は目立つ服装と夜光反射材の着用、道路横断時の安全確認をしっかりと行い、お互いに交通事故に遭わないようにしましょう。

最後に、運転者の皆さん、事故を起こさないための基本的なことは運転免許証を取得時の気持ち忘れぬことです。町民一人一人が安全運転を実行し、

たどりゆく山田路の秋深まりで
菊地輝雄(山田・?歳)
赤トンボどこへ行くのか茜雲
佐藤兼男(荒川・?歳)
息吸って
止めて吐いての声こもる
レントゲン室不安はつる
菊地孝進(船越・85歳)

町に50万円の寄付

「町のために使ってください」と、このたび、ふる里山田同郷の会会員(匿名希望)の方から町に50万円の寄付がありました。町では、貴重な財源として、有効に活用させていただきます。ありがとうございます。

はまなす学園祭&シクラメン祭

はまなす学園では、第22回学園祭&シクラメン祭を開催します。多数ご来場ください。
◆日時 10月14日(日) 午前9時～午後2時
◆場所 一休館(船越公園内)
※雨天の場合は、はまなす学園で行います。
◆内容 もちまき、ステージショー、野菜やシクラメンの販売など
※先着300人に豚汁を提供します。
◆問い合わせ はまなす学園 ☎84-3231 へ。